

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜高等学校定時制課程

学校番号

902

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、商業教育をとおして「生きる力」を育成し、地域社会に貢献しうる有為な商業人の育成を目指し、特に次の目標の実現に努める。</p> <p>(1) 普通教育及び商業に関する専門教育の基礎学力を着実に習得し、将来にわたって創意をはたかせ、進歩向上を図る商業人を育成する。</p> <p>(2) 心身ともにたくましく、強い意志と実践力のある商業人を育成する。</p> <p>(3) 礼儀を重んじ、社会秩序を守り、進んで協力・奉仕する商業人を育成する。</p>
2 現状の分析	<p>○在籍生徒71名（令和3年1月末現在）は全般的におとなしく真面目である。商業科目の資格取得にも前向きな姿勢で取り組み、毎年のべ100名以上が検定に合格している。</p> <p>○全校生徒の約70%が就労（アルバイト）をしながら家計を助け、学業との両立に努めている。</p> <p>○職員は一人一人の個性を尊重して、熱意をもって支援に努めている。</p> <p>▲全校生徒の約40%が小中学校時代に不登校を経験している。また、日本語が十分理解できない外国籍の生徒、学び直しを目標に再入学してきた生徒等、多様な生徒が在籍しており、学習面において基礎・基本的な学力が十分身に付いてない。</p> <p>▲集団生活の経験不足から人間関係を構築することが苦手で、コミュニケーション能力が十分身に付いていない生徒が多い。</p>
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として必要な基礎・基本的な学力を身に付ける。 ・社会人として求められる規範意識や、良好な人間関係を構築する社会性を身に付ける。
4 今年度の具体的な重点目標	<p>基礎学力や学び方を身につけることにより、社会の変化にも対応できる学習指導を推進する。（学習支援）</p>

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
学習支援	①少人数授業や習熟度別授業によって、学習の理解につながる指導を展開する。	①生徒対象のアンケートで、「学習の理解につながっている」と答える割合が70%を得られたか。	①肯定的な回答する生徒の割合は、83.1%であった。保護者対象のアンケートでも87.3%が肯定的であった。	A	○生徒の興味関心を高め、個々に合った指導を展開するため、多くの職員がICT機器を有効に活用した。 ▲資格取得は商業科の取り組みではあるが学校全体の教育活動として位置づけること、またキャリア教育と結び付け、卒業後の進路にもつながるような指導体制を構築したい。	B
	②全教科で授業アンケートを実施し授業改善を推進する。	②生徒対象の授業アンケートで「先生の授業の組み立てがよい」と答える割合が70%を得られたか。	②肯定的な回答をする割合は、73.1%であった。	B		
	③個に応じた資格取得目標を掲げさせ、目標に向かって取り組ませる。	③保護者対象のアンケートで、「学校は資格試験等に対して熱心に指導をしている」と答える割合が70%を得られたか。	③今年度の検定結果はまだ出ていない。肯定的な回答する保護者の割合は、88.9%であった。生徒も79.7%が「前向きに取り組んでいる」と回答した。	B		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月2日

・生徒、保護者のニーズを確認して、新たな取り組みを創意工夫することを大切にするとよい。

・ICT機器を用いた授業は小中学校でも進んでいる。職員がレベルアップできるように、研鑽に努めてもらいたい。

12 来年度に向けての改善方策案

・生徒の集中力を持続させ、基礎基本的な学力を定着させるために、整備されたICT機器を有効に活用する。そのために、職員研修会や授業研究会を定期的実施する。

・資格取得を学校全体の教育活動として位置づけるため、教科担任とHR担任が連携して推進する。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜高等学校定時制課程

学校番号

902

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、商業教育をととして「生きる力」を育成し、地域社会に貢献しうる有為な商業人の育成を目指し、特に次の目標の実現に努める。</p> <p>(1) 普通教育及び商業に関する専門教育の基礎学力を着実に習得し、将来にわたって創意をはたかせ、進歩向上を図る商業人を育成する。</p> <p>(2) 心身ともにたくましく、強い意志と実践力のある商業人を育成する。</p> <p>(3) 礼儀を重んじ、社会秩序を守り、進んで協力・奉仕する商業人を育成する。</p>
2 現状の分析	<p>○在籍生徒71名（令和3年1月末現在）は全般的におとなしく真面目である。商業科目の資格取得にも前向きな姿勢で取り組み、毎年のべ100名以上が検定に合格している。</p> <p>○全校生徒の約70%が就労（アルバイト）をしながら家計を助け、学業との両立に努めている。</p> <p>○職員は一人一人の個性を尊重して、熱意をもって支援に努めている。</p> <p>▲全校生徒の約40%が小中学校時代に不登校を経験している。また、日本語が十分理解できない外国籍の生徒、学び直しを目標に入学してきた生徒等、多様な生徒が在籍しており、学習面において基礎・基本的な学力が十分身に付いてない。</p> <p>▲集団生活の経験不足から人間関係を構築することが苦手で、コミュニケーション能力が十分身に付いていない生徒が多い。</p>
3 学校の抱える課題	<p>・社会人として必要な基礎・基本的な学力を身に付ける。</p> <p>・社会人として求められる規範意識や、良好な人間関係を構築する社会性を身に付ける。</p>
4 今年度の具体的な重点目標	個々の生徒の特性を的確に把握するよう努め、その伸長を図る。（生徒支援）

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
生徒支援	①積極的な情報発信を心がけることで、家庭との連携を深めるとともに理解と協力を得て、保護者との信頼関係を築く。	①保護者対象のアンケートで、「保護者の悩みに対応してくれる」と答える割合が70%を得られたか。	①肯定的な回答をする保護者の割合は85.7%であった。また、HPページの活用やメール配信の有効活用についても肯定的な回答の割合は、約90%であった。	B	○職員が生徒の様子や情報を共有し、保護者との連携を密にすることで、生徒が勉学と勤労を両立し、落ち着いた生活を送ることができた。	B
教育相談	②教育相談や生徒会行事など授業以外の様々な機会を通して、生徒との信頼関係を築き、生徒理解をより深め、自立する力を育てる。	②生徒会行事の出席率90%、生徒対象のアンケートで、「学校行事が充実している」と答える割合が70%、保護者対象のアンケートで「教育相談を行い、個々への適切な指導を行っている」と答える割合が70%を得られたか。	②多くの生徒会活動・行事が中止となったが、10月に実施した映画鑑賞会にはほぼ全員が出席した。教育相談について、肯定的な回答する保護者の割合は87.3%であった。	B	▲コロナ禍の中でもできる生徒会活動や行事を計画し、集団の一員として活躍する場面を増やし、自己有用感をもたせることで、自主性や積極性を育成したい。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月2日

・学校からの文書やメールによる連絡、ホームページによる情報発信は、子どもや学校の様子を理解するツールである。多すぎることはないので、今後も一層の充実をお願いしたい。

・学校生活への適応指導は必要である。そこにとどまらず社会人として求められる規範意識も身に付けさせてほしい。

12 来年度に向けての改善方策案

・保護者との連携をさらに深めることで、迅速かつ確かな支援を行う。また、本校のスクールカウンセラーや外部機関との連携を図ることの重要性を理解する。

・提出書類のオンライン化に向けて、保護者や生徒の目線に立って進める。

・過去の行事を踏襲するのではなく、生徒会と連携しながら、全校あるいはLHRの中で取り組むことのできる行事を取り入れる。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜高等学校定時制課程

学校番号

902

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、商業教育をととして「生きる力」を育成し、地域社会に貢献しうる有為な商業人の育成を目指し、特に次の目標の実現に努める。</p> <p>(1) 普通教育及び商業に関する専門教育の基礎学力を着実に習得し、将来にわたって創意をはたかせ、進歩向上を図る商業人を育成する。</p> <p>(2) 心身ともにたくましく、強い意志と実践力のある商業人を育成する。</p> <p>(3) 礼儀を重んじ、社会秩序を守り、進んで協力・奉仕する商業人を育成する。</p>
2 現状の分析	<p>○在籍生徒71名（令和3年1月末現在）は全般的におとなしく真面目である。商業科目の資格取得にも前向きな姿勢で取り組み、毎年のべ100名以上が検定に合格している。</p> <p>○全校生徒の約70%が就労（アルバイト）をしながら家計を助け、学業との両立に努めている。</p> <p>○職員は一人一人の個性を尊重して、熱意をもって支援に努めている。</p> <p>▲全校生徒の約40%が小中学校時代に不登校を経験している。また、日本語が十分理解できない外国籍の生徒、学び直しを目標に入学してきた生徒等、多様な生徒が在籍しており、学習面において基礎・基本的な学力が十分身に付いてない。</p> <p>▲集団生活の経験不足から人間関係を構築することが苦手で、コミュニケーション能力が十分身に付いていない生徒が多い。</p>
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として必要な基礎・基本的な学力を身に付ける。 ・社会人として求められる規範意識や、良好な人間関係を構築する社会性を身に付ける。
4 今年度の具体的な重点目標	<p>個々の生徒の興味や適性に応じた、きめ細かな進路指導を推進する。（進路支援）</p>

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
進路支援	外部講師による進路ガイダンスを実施し、様々な仕事に対する認識・理解を深める。	①保護者対象のアンケートで、「生徒が進路情報の適切な提供を受け、指導を受けた」と答える割合が70%を得られたか。	①②5月に予定の「進路ガイダンス」は10月に実施できた。肯定的な回答をする保護者の割合は77.8%であった。	B	○進路（進学、就職）を決定せず卒業した生徒の割合が、昨年度は約30%であったが、今年度1月末現在で未決定者は約15%である。 ▲生徒の希望を聞きながら、現実的な部分も自覚させ、より適した進路先を提示する。そのためにも保護者との連携を一層強めていきたい。	B
	各学年、時期に合わせた進路情報を様々な場面で提供する。	②保護者対象のアンケートで、「保護者が必要とする進路情報の提供する場が得られた」と答える割合が70%を超えたか。				
	早い段階から、進路希望に応じた個別指導を実施する。	③保護者対象のアンケートで、「生徒の進路希望に沿ったアドバイスが得られた」と答える割合が70%を超えたか。	③肯定的な回答をする保護者の割合は82.5%、生徒の割合は75.4%であった。	B		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月2日

・高校卒業時に生徒が進路決定していけるように、1年生からのキャリア教育を大切にしてほしい。

・進路情報を保護者に対しても積極的に発信し、連携を深めることを大切にもらいたい。

12 来年度に向けての改善方策案

・外部講師による「進路ガイダンス」を、状況に合わせてできるだけ早い時期に実施する。

・各分掌、教科担当者との情報交換を増やし、連携を強化して進路指導を推進する。

・キャリアパスポートの利用について検討していく。

